

**製品名: Topo III $\beta$ -1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19128**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	96kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TOP3B
別名	TOP3B; TOP3B1; DNA topoisomerase 3-beta-1; DNA topoisomerase III beta-1
遺伝子 ID	8940.0
SwissProt ID	O95985
免疫原	抗血清はヒト TOP3B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

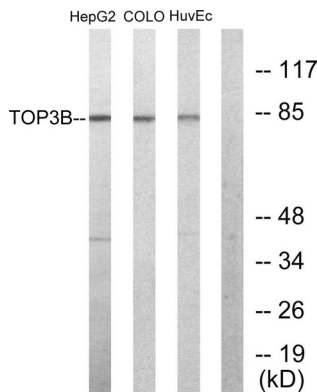
この遺伝子は、転写中の DNA のトポロジー状態を制御・変化させる酵素である DNA トポイソメラーゼをコードしています。この酵素は、一本鎖 DNA の一時的な切断と再結合を触媒し、鎖同士が互いにすり抜けることを可能にします。これにより、スーパーコイル

が緩和され、DNA のトポロジーが変化します。この酵素は DNA ヘリカーゼ SGS1 と相互作用し、DNA 組換え、細胞老化、ゲノム安定性の維持に関与しています。この遺伝子の発現が低いことは、乳がん患者の生存率が高いことと関連している可能性があります。この遺伝子は 22 番染色体に偽遺伝子を持っています。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが他にも報告されていますが、その全長は不明です。 [RefSeq 提供、2013 年 8 月],触媒活性: ATP 非依存的に一本鎖 DNA を切断し、その後通過させて再結合させる。機能: 負のスーパーコイル DNA を弛緩させる活性を有する。類似性: 原核生物の I/III 型トポイソメラーゼファミリーに属する。組織特異性: アイソフォーム 1 は精巣、心臓、骨格筋に認められる。アイソフォーム 2 に相当すると考えられる 4kb の転写産物は、胸腺、腎臓、脾臓に認められる。、

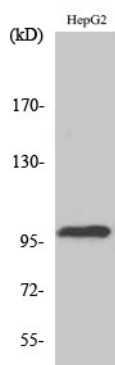
## 研究分野

相同組換え;

## 画像データ



TOP3B 抗体を用いた HepG2 細胞、COLO205 細胞、HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Topo IIIβ-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。